

## 「第34回環境教育・環境学習ネットワーク会議」議事録

- 1 日時：令和3年6月10日（木） 15:00～17:00
- 2 場所：横須賀市消防局庁舎3階第3会議室
- 3 出席者：天白座長、桐谷副座長、浅見構成員、内船構成員、遠藤由美子構成員、加藤構成員、高橋構成員、奈良谷構成員、林構成員、吉田構成員（計10名）
- 4 事務局：環境政策部環境企画課（島田課長、鈴木主査、大場主任、池田、天野）
- 5 傍聴者：なし
- 6 その他：一部構成員がWebにより参加

### ◆ 会議の流れ

- 1 開会
- 2 議題
  - (1) 「（仮称）横須賀市新環境基本計画」における「環境教育・環境学習」について
- 3 報告
  - (1) 「環境教育・環境学習ネットワーク会議設置要綱」の改正等について
  - (2) 令和3年度「相互交流を生かした人材育成講座」について
- 4 その他

### ◆ 議題1 「（仮称）横須賀市新環境基本計画」における「環境教育・環境学習」について

〔事務局からの説明〕

新計画における「環境教育・環境学習」にかかる記載内容（文章全体の書きぶり、数値指標や「施策の方向と実現に向けた取組」に掲げた事業等の妥当性やその他の指標案・事業案など）について、ご意見をいただきたい。

### ■ 天白座長

ただ今の事務局からの説明について、ご意見やご質問はあるか。

### ■ 高橋構成員

資料1の「2（1）基本目標でめざす姿と指標」「①基本目標でめざす姿」で「持続可能な開発のための教育（ESD）を推進することを目指しています。」と書いてある一方で、新計画（案）の「第1章1（1）計画策定の目的・経緯」で「国際的には、2015年9月に持続可能な開発のための2030アジェンダが採択され、持続可能な開発目標（SDGs）が掲げられるとともに」とあるので、SDGsを盛り込んだ計画にした方が良いと感じた。

### ■ 事務局（鈴木主査）

「横須賀市環境教育・環境学習マスタープラン」では、基本目標の「環境教育・環境学習」に関わる部分にESDというキーワードを使用している。「新環境基本計画」では、基本目標が1から5までであるが、基本目標に付随する様々な事業についてSDGsの17の目標とマッピングする仕組みをとっているため「SDGs」の概念が反映されている。

基本目標5「環境教育・環境学習」についても「SDGs」が上位にあり、「ESD」についても記載している。

#### ■内船構成員

資料1「施策の柱② 環境教育・環境学習の機会の充実」「ii 施策の方向と実現に向けた取組」「①環境教育・環境学習の機会・場の創出に努めます」に「自然・人文博物館・教育園」と記述されているが、「・」が続いてしまうので工夫していただきたいのと、「自然教育園」が正式なので修正していただきたい。

#### ■事務局（鈴木主査）

「自然教育園」に修正する。

#### ■高橋構成員

資料1「2（1）基本目標でめざす姿と指標」「③基本目標達成の目安となる指標」で数値指標とある。新環境基本計画の本文の中でSDGsを色濃く入れるとのことだが、SDGsは数値指標が入っているので反映するとわかりやすくなると思う。

例えば、食品ロスは半減するとの数値が入っている。「新環境基本計画」の中でも「2 計画の対象（2）計画の対象範囲」の循環型社会・廃棄物に食品ロスが入っているので、この辺りもSDGsの目標を考慮するとより数値指標がはっきりすると感じた。

#### ■天白座長

ただ今のご意見について事務局いかがか。

#### ■事務局（鈴木主査）

基本目標3は資源循環の分野である。

SDGsの目標に沿えるかは、市としても食品ロスを色々な場面で広めていく事業は行っているので、ご意見としていただき環境審議会事務局とすり合わせし内部で検討したい。

#### ■高橋構成員

食品ロスは一例としてあげたので、それだけに限らず全体的にバランスよく見ていただきたい。

#### ■桐谷構成員

数値指標について意見したい。指標ということなので、目指す姿やあるべき姿があり、その姿に対して届いているのか否か、また、それにかかる数値的なものが指標になればよいと思う。例えば資料1の「（1）基本目標でめざす姿と指標」「①基本目標でめざす姿」に「環境に配慮した行動に取り組むことができる次世代の社会を担う人材を育むことをめざします。」とあるが、実際に育む、あるいは育んだ人が確認できる指標ができると良いと思う。今までの取り組みの成果は上がっていると思うが、市内でそのような方が育っているのかなど現状を把握できるとよい。他の市町村の情報もWebで見たが、全国で「環境リーダー」というキーワードで検索すると若手が育っていない。横須賀市も、次世代に対してどのようにアプローチをしていくのか、横須賀市の環境に関わる人材育成をみていく一つの形になると思う。

## ■天白座長

ただ今のご意見についていかがか。

座長としてではなく、意見を申し上げたい。

今回の施策の目標に「環境にやさしい社会の担い手を育むまちをめざします」とあるが、あらゆる人が環境にやさしい社会の担い手となると、活動家や活動団体など専門家と呼ばれる人の存在意義やウエイトが下がるが、それは良い方向に向かっていると言って良いのではないかと思っている。

「③基本目標達成の目安となる指標」で「市内の小学校で自然体験学習の機会を提供します」とあるが、あらゆる人に環境学習を推進していくためには学校教育が基本になると捉えると良いと思っている。

活動団体へのネットワークが大事なのもさることながら、専門家や専門団体として、活動をしていない人々に対していかに環境保全の意識を高め、知識だけではなく担い手として育ててもらえるかの施策を、この機会に充実していただきたい。

例えば「全ての小学校で必ず自分の地域の自然環境について深く学び、問題を解決するトレーニングを卒業までに1回は行う。」などといったような、積極的な施策が打ち出せると良いと思う。

## ■桐谷構成員

最近の私の体験からの話だが、先日ホタルを見に衣笠山公園に行ったが、とてもきれいだった。ホタルなのでライトは消した方が良いとか、赤いセロファンを巻けば良いなど、インターネットで調べて行ったのだが、例えば、「ホタルは本当に赤い光は見えないのか。」「どのような光が周りにあるとホタルの生態系に及ぼすのか。」「横須賀の夜は暗いのか。」と、身近な疑問や関心から広がり色々なことを考えた。ホタルを見に行き「きれいだね。」だけではなく、光害、エネルギーの問題など色々な所に繋がっており、環境学習とは繋がりや関心を持つことが大事であると感じた。この「環境教育・環境学習ネットワーク会議」など、いろいろな立場の方が連携する場があるので、繋がりを大事に意見交換できるような活動計画にすると良いと思う。

## ■天白座長

横須賀には自然・人文博物館で学芸員をされていた大場先生というホタルの権威がいらっしゃり、長年ホタルを研究し、ホタルに害のない街路灯はどのようなものかなど治験を重ねてきた。昆虫分野後任の内船構成員いかがか。

## ■内船構成員

指標に関して「環境にやさしい社会の担い手を育むまちをめざします」という取り組みの中で、従来の取り組みを見ても普及啓発に関してはかなり回数を行っており、数値化できそうである。

桐谷構成員のご意見のように、ホタルというきっかけから自分なりに興味を持ち、社会に対して関わりを深めて担い手になっていくことを考えると、きっかけから行動する人に転じていくのをどのように数値化していくのか。社会にとって望ましい段階を上の方にした場合、入り口である講演会やワークショップを段階の一段目に想定した時に、今回の指標にこれは一段目、これは二段目という感じで、指標の中でも多くの市民の活動が望ましい方向に転じていく段階をデザインが出来ないかと感じた。

### ■天白座長

今の意見に同感である。普及啓発活動は行った回数などは数値化しやすいが、普及啓発を受ける側がどのように環境にやさしい社会の担い手に変身していくのを確認するのは難しいと思う。ただ、環境学習の授業を受けた子どもたちの何割かはこの世界に浸っていく子どもが出てくる。普及啓発を行うと何パーセントかは残ってくれると確信しているところであり、自分自身も中学生の時に受けた環境学習の外部講師をきっかけで今に至っているので、普及啓発の大切さは身をもって実感している。

指標ということで、内船構成員の意見のように1つではなく、階層をもって表現できるとな  
お良いと思うがいかがか。

### ■桐谷構成員

内船構成員の考えは良いと感じた。私も具体的な意見ではないので事務局と連携していくと  
良いと思う。

### ■天白座長

事務局いかがか。

### ■事務局（鈴木主査）

8年間の計画期間の中で8年後どのような形が望ましいか、それに向かってどのくらい達成  
することが出来たのかを具体的な数で出していきたい。例えば、今は基準が50だが100を目指  
すとした時に8年間の計画期間の中でどこまでいったか数値があると管理しやすいので数値目  
標が立てられると良いと思う。

座長にもご協力いただいている「小学校で学校の自然を体験する事業」を自然環境共生課で  
行っている。予算の都合もあるので全ての学校のニーズに答えられないもどかしさもあるが、  
例えば学校数、クラス数、人数が第一ステップの入り口としてある。次に、学校の授業だけ  
ではなくもっと勉強したいと思う児童がいたとしても人数の把握が出来ない。この授業を受  
けたからこのようになったと言うのは後で分かるが、流れとして入り口から活動するま  
でになった人数などを把握するのは難しい。色々なツールを使いながら、例えば、自然  
体験の授業に何人が参加した。次に、環境に関わるイベントなどに自発的に行動する  
ような機会に参加した。その児童は、学校の授業のような受ける側のものから環境  
に興味を持ち、自発的な行動によって参加した。となれば、その児童は次の  
ステップに移行した気がする。そのような物を色々積み重ねることが出来るので  
あれば、市の事業の中で子どもが体験するようなものを色々考えて数値として、  
参加者の人数が取れるようであれば次の段階の指標にする。

次に、環境教育・環境学習の担い手では、活動者の高齢化や人数が減少してきている。  
以前、当課では環境教育に携わる方を育てたいと思い、事業化を提案したことはあるが  
予算上の問題により、指導者養成講座の実施までは至らなかった。

県では「環境学習リーダー養成講座」、環境省では「環境カウンセラーの認定制度」がある。  
構成員の中には「環境学習リーダー」や「環境カウンセラー」の資格をお持ちの方もいる。  
市として人材を養成することが出来なかったとしても、県の機関と連携し、本市で活動  
していただける環境教育に関わる教える側になる人を育てていける、環境教育を担  
う人が出来るようであれば、具体的に8年後に何人にしますと簡単には出来な  
い状態だが、段階を幾つか持ち、連続する指標とするのは難しいと思うが、個々  
に切り取り、色々な段階で数値を設け、8年間で

評価が出来るような物を作ることが出来れば、新しい切り口で指標そのものも継続性があり、人が育っていく姿が分かるのではないかと感じた。頂いたご意見を上手く環境基本計画の中で落とし込めるようであれば、工夫して指標を考えていきたい。

#### ■天白座長

行政主導で環境学習の指導者を育成するのは大変だと思う。労力も掛かり、短期間で指導者が出るものではないと感じる。今までどのような人がリーダーとして活動しているのか考えてみると、大学の時に環境や自然の問題に関わったとか、企業で環境に関する部署や研究所にいた方がたまたま横須賀に住んでいた、定年して横須賀に戻ってきた方が力を発揮するかなと思う。実際にリーダーになるためにカリキュラムで育成するよりは、横須賀の自然は大事、故郷の自然は良いと原体験として人々の心に植え付け、種をたくさん撒いておき、後で自然にかえってきてもらう、鮭のようにたくさん卵を産んで、後で大きくなったら戻ってきてもらう、そんなイメージの方が良いのではないかと感じる。

横須賀は自然環境に対する市民活動の歴史が非常に古く、「三浦半島植物会」から始まり100年以上そのような団体が脈々とある地域柄である。「三浦半島自然保護の会」は1959年に発足しているが、その前身が坂本中学校と県立横須賀高校の生物部だったのだが、そのような所から考えても、市内の学校に「量」もそうだが「質」も高い状態で環境学習を推進していくのが非常に重要だと思っている。いただいた意見を事務局でまとめて欲しいと思うがいかがか。

#### ■事務局（鈴木主査）

7月1日に環境審議会があり、9月30日に環境審議会の中で市長への答申がある。

環境教育・環境学習ネットワーク会議の中でご意見をいただく機会は今日が最後だが、環境審議会の作業はしばらく続き、計画が完成するのは来年の3月で、その間にも市民の意見を聞く機会などもあるので、まずは7月1日以降どのくらいの情報になっているかはご案内する。

#### ■天白座長

9月の市長答申までに時間があるとのことなので、それまでの間に事務局からご案内をいただき皆さんに確認していただき、ご意見があれば事務局にお願いしたい。

#### ◆報告1 「環境教育・環境学習ネットワーク会議設置要綱」の改正等について

〔事務局からの説明〕

「環境教育・環境学習ネットワーク会議」の任期を令和4年3月31日まで延長することについて、要綱の改正を行ったので報告する。

#### ■天白座長

ただ今の事務局からの説明について、ご意見やご質問等はあるか。

これまで「環境教育・環境学習ネットワーク会議」は主に「横須賀市環境教育・環境学習マスタープラン」に関する議論が多かったと思うが、令和4年度から新しい形になるということなので新環境基本計画の一つの柱である「環境教育・環境学習」について話し合うだけではなく、皆さまと連携して環境教育・環境学習を盛り上げていく会に発展していけると良いと思う。皆さんには引き続きご協力をいただきたい。

## ◆報告2 令和3年度「相互交流を生かした人材育成講座」について

〔事務局からの説明〕

令和3年度の「相互交流を生かした人材育成講座」の今後の方針について報告する。

### ■天白座長

ただ今の事務局からの説明について、ご意見やご質問等はあるか。

人材育成講座に関しては引き続き状況を見ながら次回の会議で提案いただきたい。教員向け環境学習講座については参加を希望する方は事務局まで連絡していただきたい。

本日の議題は以上になりますが他にご意見はあるか。

### ■吉田構成員

議題1の基本目標「環境にやさしい社会の担い手を育むまちをめざします」について、学校の代表として現状をお話しさせていただく。担い手、リーダーを育成するのは難しいと感じた。1つ目は教育の質。その中の1つは感染症である。座長の行う学区のチラシが各学校にも回ってきたので申し込もうと思っていたが、緊急事態宣言等でストップがかかってしまった。体験学習に取り組むことについては、保護者の関係で万が一を想定してしまう。学校がどのように感染症をクリアしていくのかは行政に委ねるが、指標1の具体的な数値をあげることは、今年度、来年度辺りは難しいと感じている。

また、授業で環境学習を扱うのは3年生以上の社会科または総合的な学習の時間になる。私は、4年生の担任をしているが、環境学習に関わるのが社会科の教科書に載っている。総合的な学習の時間においても、各学校4年間で1年くらいは環境に関わることを扱っていると思う。体験的な物が出来ないと、社会科では教科書を中心にどのように身近な物に置き換えてやっていくのかが課題だが、その中で、元々子どもたちが持っている知識をいかに守っていくのか、教科書だけでは難しい物を体験させたり、身近な物と出会わせたりする機会が失われるのは残念でならない。また、担い手を作るための学習ではないが、専門家と会うと、子どもたちは憧れがあるのでそのようになってみたいと思うし、そのような機会をこれから先、どのように設定していくのかが学校側の大きな課題である。

2つ目は、座長のご意見にもあった横須賀の自然を守りたいという思いについて。昨年度は6年生を担当しており、地域のことを学習していたのだが、子どもたちにこの地域の良いところを聞いた所、「あまりない。」との答えだった。それは住んでいて当たり前を感じているからだと思う。例えば、カブトムシは横須賀市出身ではない私はペットショップで買うものだが、横須賀ではそこら辺にいる。私からしたらすごいことだが、子どもたちにとっては当たり前のことである。子どもたちにとっては、自然を守るというよりも当たり前の生活なので、大人になり色々な所に住むことで、「あの時の自然は当たり前ではない。」と思うからこそ、「自分たちで何か出来るか。」と思うのではないかと感じる。計画期間の8年は担い手が育つには短い期間だと思う。8年以降も小学校などで少しずつ種を植えることが大切だと、教師側としてもいかにそのような体験を設定していけるか考えていきたいと思う。

### ■天白座長

学校の実情についてお話いただいた。

今は難しい情勢である。新環境基本計画の議論をしていたが、8年後にどのような環境学習が出来る横須賀市にしていこうかとのことなので、きっとその頃には過去のことになっている

と思う。それに向けて、臆することなく着実に環境学習を進めて質も量も高めていけるかだと思ふ。

最近の学校の先生は業務量が多く、どの先生も環境学習だけを掘り下げて行うのは難しい状況であると思ふ。新たな「(仮称)横須賀市環境教育・環境学習推進協議会」や市の事業でも良いので、横須賀市には環境学習に携われる「教員ではない方」がたくさん揃っており、博物館等の施設も充実しているので、地域の強みを活かして、小学校や中学校に対して手を差し伸べていけるような施策になると良いと感じる。

昔は学校の先生の中には仙人のような人が何人かおり、地域のことなら何でもわかるというような状態だったかと思ふが、今は出身地域もバラバラで年齢が若い先生が多いので、先生と一緒に環境学習の学びを深めるスタイルになっていくのかと思ふ。

#### ◆事務局から事務連絡

##### ■関係職員（池田）

環境月間啓発イベントについてご案内する。

##### ■事務局（大場主任）

事務連絡が4点ある。

1点目は、本日の議題について追加のご意見等があれば、6月17日（木）までに事務局へご連絡をいただきたい。

2点目は、席上配付した「よこすかECO通信」第41号は、秋に「全国『みどりの愛護』のつどい」を本市で開催することから記念号とし、今までと紙面の構成を変えている。色々協力をいただきありがとうございました。

3点目は第7期構成員について、第6期構成員の任期は7月末で終了となる。8月から令和4年3月まで第7期としてお願いしたい。

4点目は、次回の会議開催は令和3年10月頃を予定しているため、改めて日程調整を行うのでよろしくをお願いしたい。

##### ■天白座長

以上をもって、第34回環境教育・環境学習ネットワーク会議を終了する。